

ち づ 智頭 議会 だより



町の花
どうだんつつじ

鳥取県智頭町議会

第166号

発行：令和6年4月16日



「おせっかいのまちづくり」の取り組みで、能登半島地震の募金活動を行うため、2月28日の議会を訪れた智頭小学校の4年生

令和6年度

☆ **当初予算を可決!!** ...P2

令和5年度

☆ **補正予算・専決** ...P6~

☆ **7人の議員が一般質問に登壇** ...P7~

☆ **各常任委員会の報告** ...P12~

☆ **広報モニターさんの声** ...P14~

☆ **町民の声(山形地区)** ...P16

智頭の思い出シリーズ55



平成4年に、旧小学校で募金箱を設置して寄付した児童。緑の羽根募金は、国内の森林整備や震災で被災された方々への支援などにも使われています。

I 森の恵みを生かしたまちづくり

地域農業振興プラン支援事業



高齢化や担い手不足に伴い遊休農地化している農地の適正化を図る担い手の支援

1,720万4千円

智頭町危険木事前伐採推進事業



危険木の事前伐採を推進し、豪雪に起因する自然災害のリスク低減を行う

100万円

千代田区CO2連携事業



120万円

議員。

令和6年度の伐採事業計画とCO2の吸収量は、どのくらいか。

執行部。

面積16.1ha、CO2吸収量(見込み)65.9tを計画している。

共助交通運行事業



6,582万8千円

AIデマンドタクシーの運行を円滑に行うため、町民ドライバーの確保に努めるとともに、「共助交通推進員」4名を配置し、サービスの向上を図る。シルバー人材センターが運営する過疎地有償運送事業の運行支援も行う。

II 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

コネクテッドカー活用



動く役場として、住民サービス向上に取り組む

84万4千円

特定空き家対策事業

適切な管理を行っていない空き家の撤去作業に必要な費用を助成 3件分



180万円

議員。

特定空き家に認定している建物で、まだ解体に至っていないものは何件あるか。

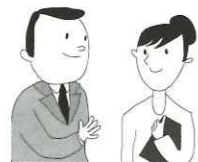
執行部。

本年度は8件を認定。5件解体撤去予定で、残り3件である。

木造住宅改修促進のための戸別訪問



耐震対策事業、新規に戸別訪問を50件予定



30万円

スクールバス運行管理事業



5,459万2千円

小学校、中学校及び保育園に通う児童・生徒・園児の利便性の向上と安全確保を図る。

3月 定例会

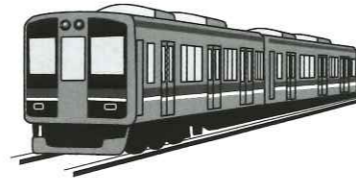
令和6年度 当初予算を可決

3月定例会(3月6日から18日)で、令和6年度当初予算や補正予算案、条例案など町長提出の46議案、議員提出の3議案を審議し、原案どおり可決しました。

公営企業会計	特別会計	一般会計
26億	19億	68億
119万円	3600万円	8000万円

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

高校生通学費補助



856万6千円

子育て世帯の負担軽減を図る

勤労者体育館空調設備工事



3,928万2千円

ねんりんピックの会場施設

特定地域づくり事業

複業協同組合の雇用と派遣需要の拡大を図る

4,000万円

議員

来年度は何人の雇用を目標としているか。

執行部

令和5年度は9名であったが、令和6年度は15名の雇用を目標としている。

Ⅳ 地域のつながりと家族のつながりでつくるまちづくり

遊ぶ広報事業



地域おこしインターンシップ制度を活用し、滞在期間にSNS情報発信

1,078万円

我が家で子育て応援給付金



家庭で、生後8週を過ぎ1歳になるまでの乳児を子育てしている父母や、祖父母に対して給付金を支給

223万円

定住促進賃貸住宅の新築

定住対策に力を入れていくため、「ゆめが丘」に2棟を新たに整備し、住居の確保に努める

5,786万円

議員

昨年に比べ、1棟あたりの単価が上がっているようだが要因は。

執行部

材料費、燃料費の高騰を考慮している。

条例の一部改正について

●特別職の職員で非常勤のもの、報酬及び費用弁償に関する条例
文化財保護審議会と伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の報酬を年額から日額に変更する。

●智頭町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例
地方自治法の改正により、令和6年度から会計年度任用職員の勤勉手当支給が可能となる。

●旧塩屋出店及び西河克己映画記念館の設置及び管理に関する条例
該当施設の効果的な活用を旨とし、一般公募による管理者募集を検討することに伴い、検討後の速やかな指定管理者募集を可能とするため管理の期間を変更する。

●智頭町部落差別の解消の推進に関する条例
インターネットによる部落差別問題は深刻であることにより、差別禁止条項を追加する。 他9議案

その他の議案

●第9期智頭町高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定

●智頭病院経営強化プランの策定

●公の施設における指定管理者の指定(智頭町老人福祉センター)

●公の施設における指定管理者の指定(智頭町立智頭町総合案内所)

他6議案

発議

●第1号

智頭町議会基本条例の一部改正

●第2号

智頭町議会の個人情報保護に関する条例の一部改正

●第3号

智頭町議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定



議員辞職

藤田浩祐議員の辞職を承認

藤田浩祐議員から「一身上の都合」により辞職願が提出され、2月22日、議長の許可を得て辞職したことが報告された。

人事案件

▼選挙管理委員・補充員の選挙

【地方自治法の規定により議会で選挙】

選挙管理委員の紹介

竹下 逸雄 さん (那岐)
谷口 辰夫 さん (土師)
葉狩 健一 さん (山郷)
山崎 理恵 さん (智頭)

選挙管理委員の補充員紹介

委員が欠けた場合は、番号順に補充となります。

① 三輪 由美子 さん (那岐)
② 綾木 修二 さん (山形)
③ 西村 馨 さん (富沢)
④ 竹内 晴男 さん (智頭)

陳情の審査結果

件名(要約)	提出者(要約)	審査結果
尾見1号農道(排水施設)復旧・改修に関する陳情書	智頭町尾見 区長 河村 孝一	採 択

■陳情書は定例会が始まる10日前までに提出ください。(土・日・祝日を除く)



詳しくは、議会事務局に
お問い合わせください。

TEL: 75-3115
gikai@town.chizu.lg.jp

陳情 受付

次回の定例会は7月10日より開催する予定です

7人の議員が一般質問に臨みました!!

ページ	議員名	質問項目	QRコード
P 8 上段	宮本 行雄	1. 防災、地震対策について	
P 8 下段	安道 泰治	1. 脱炭素社会に向けた取り組みについて 2. 百菜館の再開に向けた取り組みについて 3. 金見町政について	
P 9 上段	岡田 光弘	1. 大規模災害を想定した地域防災の取り組み	
P 9 下段	大河原 昭洋	1. 智頭らしい福祉の町づくりについて 2. 住みたい町づくりについて	
P10 上段	波多 恵理子	1. 教員の働き方改革について	
P10 下段	谷口 翔馬	1. 子どもの体力向上について 2. 公園について 3. 財源確保について	
P11 上段	仲井 莖	1. 人権意識調査報告書について 2. 第5次男女共同参画プランについて 3. 避難訓練について	

※一般質問の録画をスマートフォンや自宅のパソコン・IP電話で見ることができます!

■スマートフォン・パソコン
を使って検索



QRコード
読み取り



智頭町議会
録画放送

検索

■IP電話で視聴

①ホーム画面→②次のページ→③智頭町議会
上記の順番でタッチして下さい。
「智頭町議会録画放送」の画面が表示されます。

令和5年度

一般会計補正予算

3月 定例会

■ ■ ■ 主な補正予算 ■ ■ ■

▲ 増 額

障がい者福祉費

障がい者給付費の増。

増 額 1,173万4千円
総 額 27,892万1千円

社会資本整備費

工事請負費、物件移転等
補償費の増。

増 額 1,602万円
総 額 10,301万1千円

林道施設災害 復旧事業費

修繕料、燃料費、工事請負費
の増。

増 額 3,604万5千円
総 額 6,654万5千円

【専決処分】

議案第1号 「非課税世帯給付金」1人5万円(18歳以下の子)
「智頭町住民税非課税世帯等給付金」1世帯8万5千円
他 1事業 総額 3,107万9千円 増額
議案第2号 智頭町手数料徴収条例の一部改正

他、特別会計・公営企業会計等補正予算10議案を先議案件として
議決しました。

一般会計補正後の予算総額 **70億9,706万5千円**

▼ 減 額

まちづくり支援事業費

まちづくり支援事業補助金、
地域経済循環創造事業補助金
の減。

減 額 2,284万4千円
総 額 221万5千円

新型コロナウイルス ワクチン接種事業費

新型コロナウイルス予防接種
健康被害給付費の減。

減 額 4,555万円
総 額 4,162万6千円

道路メンテナンス 補助事業費

設計監理及び測量委託料など、
工事請負費の減。

減 額 4,080万5千円
総 額 12,275万3千円

決算見込みに基づき人件費、事業費などの
調整により、減額補正2億5,838万5千円

人件費減額
事業費減額
1億9,539万5千円
6,299万円



宮本 行雄

震災対策

震災発生時の情報周知は町長／防災行政無線と告知端末で行う

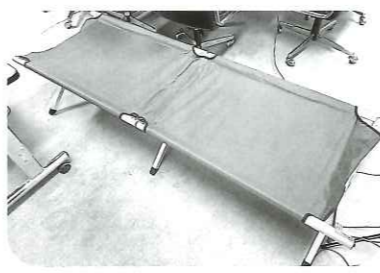
問 地震発生時以後、正確な情報をより早く住民に周知する事が重要と考える。町が発信する情報はどのような方法を想定しているのか、町長の考えを問う。

答 町長 災害時に正確な情報を迅速かつ的確に住民の方々に周知することは、人心の安定と社会秩序の維持に重要な役割を果している。町の情報伝達の方法は、従来どおり防災行政無線と告知端末になる。

答 町長 消防団とは、これまでSNSを通して現場の災害状況などを、写真や動画等で情報収集を実施しているの、継続していく。

町が設置している防災行政無線は、停電から72時間は自家発電装置で運用が可能である。停電時の住民の皆様への情報の伝達方法は、防災行政無線を考慮しており、その間には、復旧できると見込んでいる。

問 現在は、災害時にもSNSが活用されている消防団員と連携し、情報発信するシステムの構築を検討することについての町長の考えは。



避難所使用の簡易ベツ



岡田 光弘

地域防災

大規模災害を想定した地域防災は町長／まず町で取り組み、県や広域にも応援を求めていく

問 年初に大規模な能登半島地震が発生したが、本町の「地域防災計画」の課題認識と広域での相互応援協定について実効あるものにするための方策についての認識はいかがか。

答 町長 地域防災計画については本町の実情に合わせて改定してきているが、雪害予防の中に集落孤立対策の部分が欠けているので、見直しを計画している。また広域相互応援協定は大変重要と認識している。応援協定が実効を上げていくように協定先とオンラインなどで訓練している。

問 学校での防災教育は重要と考える。子どもたちが



智頭地区での避難訓練

学校で得た問題意識の家庭や地域での共有は地域防災力の向上につながる。防災教育を通じて地域との接点を持つことになるのではないか。

答 教育長 学校では生命保持を第一とし、安全かつ迅速に避難できるよう訓練している。地域とのつながりについては地域行事に積極的に参加することにより、社会の一員としての自覚を持ち、防災に貢献できる人材育成になると考える。



安道 泰治

脱炭素社会

千代田区との連携協定は町長／関係人口を創出し、木材利用の推進を図る

問 本町で、令和5年12月25日に東京都千代田区と2050年脱炭素社会実現に向けた連携協定の締結を機に関係人口を創出し、森林整備や木材の推進を図ると述べられているがどのような進め方をするのか。

答 町長 少子高齢化や人口減少が進行する本町において、都市部との交流によつて智頭町ファンを増やし、森林整備を行う。町有林を千代田区と智頭町の交流のフィールドとして位置づけ、関係づくりを進めていき、森林整備と木材利用の推進を図り、脱炭素社会に向けた貢献をしていく。



リモートによる協定式

問 千代田区以外の自治体や企業などとも協定を視野に入れて民有林にも広げていくというような様々な展開を図っていくという構想があるのか。

答 町長 まずは千代田区と協定を結んだばかりなので、他の自治体と結ぶのではなく、千代田区との地盤を固めてからのことだと考えている。



大河原 昭洋

介護予防

課題解決への取組強化は町長／フレイル予防を推進する

問 本定例会に提案された第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画は、法により3年に一度見直しを行うこととなっているが、第8期の期間中に顕在化してきた課題や問題点はどのようなことがあるのか。

答 町長 高齢者の外出機会の減少による「閉じこもり」の割合が増加している。またその一方で、地域のミニデイやサロンなどの通いの場への参加割合が増加していることから、地域内での2極化が進んでいることも懸念される。

問 次期計画期間で見えてきた課題解決に向けて、取り組みを強化する内容は。



みんなで楽しくフレイル予防

答 町長 社会とのつながりが途切れることが全ての衰えの最上位に位置する要因であることから、介護予防から介護になる前のフレイル（虚弱）予防へと考え方の転換も必要。さらに、地域における介護予防の取り組みも機能強化が必要であり、住民主体の通いの場へのリハビリ専門職との連携強化を推進する。



波多 恵理子

働き方改革

教員の働き方改革の現状と課題は
教育長／対策に手詰まり感も出ている

問 近年、教員の長時間労働の問題が報じられているが現状は。

答 教育長 様々な取組みにより、時間外勤務は減少傾向にあるが、現在対策に手詰まり感も出てきている。

広がり過ぎた学校、教師が提供するサービスの一部を我慢していただくことや一部の取り組みを別の主体に代わってもらうことなどを考えていく必要がある。そのためには地域や関係者とのしつかりとした話し合いを通して、合意形成を図っていくしかないと考えている。

問 令和5年の「教員勤務実態調査」の速報値による

と、ほとんど改善されていないとのことだが、本町においてはどうか。

答 教育長 長時間勤務者の割合を令和元年度と4年度を比較すると、小学校では2・2%の減、中学校では21・3%の減となっている。

今年度は、スクールバス化による生活時間の変更やプール管理業務の廃止、留守番電話対応や部活動指導員の拡充の取り組みにより、時間外勤務が月45時間を超える割合はさらに減っている。



仲井 莖

人権意識調査

現状をどのように捉えているのか
町長／まだまだ厳しい現実がある

問 人権意識調査報告書の結果を受け、現状をどのように捉えているのか。

答 町長 人権や差別に関する考え方の問いでは、女性の人権、それから障がい者の人権、そして子どもの人権、高齢者の人権について、回答の3割の方が考え方に否定的な傾向にある。

長い年月をかけて人権同和教育の推進、啓発に取り組んできたが、まだまだ人権問題が解消されていないという厳しい現実があると捉えている。

問 見えてきた課題に対して、今後どのような対策を考えているのか。

答 町長 本人通知制度の導入や、国における人権法制度の整備を求める取り組みのひとつとして、今定例会に「智頭町部落差別解消の推進に関する条例」に部落差別を禁止する条例文を加える改正を上程しているところである。

住民の4割の方が講演会などに参加したことがないという回答もあり、周知も今以上に行い、参加を促していきたい。



智頭町基本的人権の擁護に関する条例



谷口 翔馬

公園整備

新たな公園を整備しては
町長／今ある施設を利用してほしい

問 子育て世代や子どもたちから最も要望が多い、新たな公園を本町に設置してはどうか。

答 町長 旧小学校の校庭や休園中の保育園の園庭を開放している。また、子育て支援センター、ほのぼの敷地内のミニ公園、久志谷児童遊園など多くの皆様に利用いただいている。加えて町民グラウンドのC.H.I.Z.U.P.A.R.Kや、新たにあなたが保育園の跡地を防災公園とする計画をしている。

問 子ども、そして町民の方が行きたいと思える公園を整備することが、一番重要ではないか。

答 町長 公園があるに越したことはないが、子どもたちが行きたい公園が必ず必要だということには繋がらない。公園整備する財源、敷地など、町の計画が根本から崩れる部分が出てくるので、今ある施設を、うまく利用していただきたい。

問 財政の問題などは、あると思うが、今現在でも本町に公園を整備してほしいという声は、とても多い。子育て世代や子どもたちの意見もしっかり胸に置いてほしい。

答 町長 気持ちは十分に受け取っている。

* 自治功労表彰 *

町村議会議員として、議会の運営及び地域の振興発展に、特に顕著なる功労のあった者、町村議会議長として6年以上在職し功労のあった者として、谷口雅人議員が全国町村議会議長会長及び鳥取県町村議会議長会長から表彰されました。



募集 智頭町議会広報モニター

智頭町議会では、議会だよりの編集改善に町民の皆さんからのご意見を反映するため、平成26年度から議会広報モニター制度を実施しています。

このたびは、現在活動されている方の任期満了に伴い、新たにモニターとして活動いただける町民の方を募集します。

【活動内容】年4回発行する議会だよりの内容について、アンケート調査への協力。

【条件等】・智頭町内に居住する方。

・活動に対する報酬は発生しません。

・任期は、令和6年8月1日より2年間。

【応募・問合せ先】 智頭町議会事務局

電話：75-3115



民生常任委員会の報告

12月14日

智頭町農業委員会との意見交換会

新たな座談会のあり方について

毎年、1月と2月に民生常任委員会と農業委員会との意見交換会が行われていたが、今回初の試みとして、町長（任命者）、副町長も参加しての交換会となった。農業委員会から提出された「畦畔の維持管理、農作物出荷支援、遊休農地対策、新規就農者の確保・育成」の4つに対して町の考え方が示された回答文を基に意見交換を行った。

■所感

近年の状況は、農業従事者の高齢化、担い手の確保問題、耕作放棄地、有害鳥獣問題など困難な状況が山積しており、年々状況は深刻になる中で、横の連携がより重要になってきている。特にJA、農業委員、行政の連携した取り組みにより、翌年度以降の作付意向などを事前に共有することで、有効な農地利用対策ができるのではないかとこの共通認識が持てた。

各地区の農業委員に今後の座談会のあり方についての説明ができたので、一歩



新農業委員との意見交換

進んだ座談会が始まり、遊休農地対策や新規就農者の確保や育成に繋がることを検討しながら、進めていきたい。また、農家だけの問題ではなく、地域で支えていく仕組みが必要だと感じたので、今後の施策を考えるうえで参考にしていきたい。民生常任委員会としても、関係機関とより連携し取り組む必要があると改めて感じた。

1月9日

2月13日

3月12日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

Q 病院経営強化プラン作成の進捗状況は。

A 1月23日の、議会全員協議会で説明したいと考えている。

Q 危険木事前伐採事業について

A この事業は、総務課と連携し進めている。今年度は、板井原2箇所を急いで実施することとなった。

Q 福祉のまちづくり推進フォーラムについて職員や町民への内容の共有は。

A 当日の動画を共有できるようにして今後も、智頭らしい福祉のまちづくりを推進していく。

Q 安心安全なまちづくり推進事業について、耐震診断の対象になるのはいつ以前の家屋か。

A 昭和55年～56年頃から耐震基準が変わっている。今回は平成12年5月以前に建てられた木造家屋が対象となる。

総務常任委員会の報告

1月23日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

Q 本町の危険木をどのくらい認識して、事前伐採ができるか。

A 今年度は、板井原2箇所、芦津2箇所を対象箇所としている。他の箇所については、来年度以降、順次対応していく。

Q 防災計画や備蓄品、避難所の見直しを行う考えはあるか。

A 防災計画の見直しは、順次行っている。地震などの対応については、来年度予算で防災力の向上に力を入れていく。

Q 共助交通について、来年度修正を考へられていることはあるか。

A 大きな変更は考えていないが、1年間のデータがとれたので、データを活用してドライバーの配置など効率的、合理的に行っていく。

Q 来年度、前日予約を導入しては。

A 前日予約を導入すると、忘れる方も出てくると思うので、どの体制がいいのか等を含めて今後、財源を考慮しながら検討していく。

Q 本町でも空き家が増えてきており、今後も続く見通しであるが、事前に防ぐ方策を考えているか。

A 本町では、終活ノートのように事前にどのような事をしたら良いかというノートを作成し、配布している。

お家の未来について考えるノート



将来ご家族の負担を減らすためにも本ノートを活用し、居住中から空き家になったときに備え、管理・活用方法について検討しましょう。

※お問合せは企画課へ

2月20日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

Q 共助交通について、ドライバーも徐々に増えているが、役場職員の運転手が常態化しているのは、問題ではないか。

A シフトの埋まらないところが出てくるので、役場職員がカバールをしていますが、運転手の常態化をしているわけではない。

Q まちのコインの今後の方向性は。

A ユーザー数は増えているが、使い方は浸透していないので、商工会から提案があった、地域デジタル通貨とともに有効なのか検討しながら進めていく。

Q 文化財整備活用事業について、石谷家住宅の瓦の葺き替えと以前に聞いたがどうなっているのか。

A 石谷家住宅の屋根については、文化庁より数年は大丈夫であるが、塀の方を早く調査修繕した方が良いとの指導があったので、塀の調査を行う。

3月13日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

主な質疑

Q 保育園の職員の配置基準が手厚くなっているが、ちづ保育園保育士の確保は大丈夫か。

A 保育士に関しては、確保できている状態である。

Q ゆめが丘定住促進住宅について、募集中であるが問い合わせがあったか。

A 現地地点で、問い合わせは1件きている。

議会運営委員会の報告

調査・視察へ

「議会改革の活性化へ、先進地で取組を学ぶ」 (岐阜県可児市議会・京都府精華町議会)

1月10日 可児市議会

■委員会代表質問を検討

市民の課題は会派より常任委員会の方が受け止めやすいということ、委員会全員一致で行う執行部への問いかけの影響力は大きく、より今後の提案に繋がれると判断し、委員会代表質問を行うようになったということである。個々の議員が行う一般質問は、各々の知識や経験、視点を中心に執行部に疑問点などを質すことになるが、委員会代表質問は所属委員会で緊急性や必要性をしっかりと議論し、論点を整理してから望むということで本町議会としても検討すべきものと感じた。



可児市議会での意見交換

1月11日 精華町議会

■議会報告会のあり方

住民参加の研修会、ワールドカフェ方式による意見交換会の実施が行われているが、以前の議会報告会では対面方式で行っていたところ、毎年参加者の顔ぶれが同じであること、行政や議会への批判的な意見が多くあがるなど、本来の趣旨である町民との意見交換ができていなかった。そのため、「近未来の町はどうあるべきか」というように、町の将来をテーマとし、7〜8人をグループ分けして意見交換を行うように改善したところ、一部の住民だけではなく、ほぼ全員の参加者から意見を聞くことができるようになったとのことである。本町の議会報告会でも同様の課題もあり、今後の議会報告会でのあり方について議論を進めていくこととしているので、全般を通して、とても参考となる調査視察であった。

※カフェのようなリラックスした雰囲気、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行う。

議会広報広聴常任委員会の報告

議会だより165号に関する 議会広報モニターからの ご意見を紹介 (町民15名)

【議会だよりの編集に関すること】

全体の構成(見やすさ・記事量など)に関する意見



- 『よい』10名
- ・全体的にバランスが取れていて見やすいと思います。
- ・見やすい記事の量で、まとめ方も読みやすいです。
- ・見やすく、活字の色やフォントを工夫されていて、タイトルがよくわかるようになったと思います。
- 『普通』4名・『悪い』1名でした。

- 表紙について
- ・毎号の事ですが、貴重な写真を探して使用されています。表紙だけでも、記念になります。

- 2〜3ページ臨時会・定例会について
- ・イラストや写真があつて分かりやすかった。
- ・文字、イラストが他のページより大きく、伝えたい事がわかりやすいです。
- 12〜13ページ委員会の報告について
- ・紙面下部の月例委員会の記事2ページ

にまたがつているので、しきりの線があればよかったです。

その他に関する意見

- ・まんが、"ちづあるある"、"智頭弁"コーナーなどはどうですか。一息つくコーナーがあつた方が読む方が増えるかも。

【町政全般・議会活動に関すること】

- 4ページ議員の定数について
- ・本来に町民の方に魅力を感じていただく議会になるように努力していくことが一番と考える。とありますが、その為には議員10名の総力が必要と考える。

- 6ページ地域農業振興プラン支援事業について
- ・従前から、町長以下最重要課題にもあがつているが、農業担い手問題は、待ったなしである。目に見えるように舵取りをお願いします。

- 13ページ商工会さんとの意見交換会について
- ・交換会で出てくる、"地域でのキャッシュレス"みたいなのは早急な導入に期待したい。行政、商業、工業、または学校、地域活動など、a11yなものになるとよい!

※モニターさんの意見は原文のまま掲載しています。

出前広報を行いました

- 日時 令和6年2月22日(木)
- 場所 R373やまさと
- 参加者 広報広聴委員4名
- 所感



旧山郷小学校「森ミニデイ」

旧山郷小学校で行われている「森のミニデイ」に、出前広報で伺った。ミニデイ参加者18名とスタッフ2名の方に、議会だよりの説明後、意見交換会を行った。

共助交通については、少しずつではあるが、住民の方々が利用できるようになってきていると感じたが、障がいのある方にとっては利用しにくいところがあるなど、不安を感じている方の声も聞かれ、町民だれもが利用しやすい共助交通にしていくためには、今後も改善を続けていく必要があると感じた。

その他、国道373号線や林道等の崩落、河川、橋梁のことなど、様々な相談について、多くの方が発言された出前広報となった。

同和問題

調査特別委員会研修会

- 研修日 令和6年2月21日(水)
- 参加者 議員10名
- 演題

「部落差別解消への取組について」

前鳥取市議会議員 椋田 昇一氏

■所感

特にインターネットによる部落差別問題は深刻であり、言論の自由を盾に部落差別が行われている。インターネットによる部落差別を解消するためにも、一刻も早く部落差別禁止法の制定が必要であると感じた。部落差別の存在や実態の認識が重要であるということ、これを改めて認識し、差別のない社会の実現に向けて、議会、議員として行動していかねければならぬとの思いを強くした研修会であった。



議会委員会室にて

健康な身体でいましょう!!

酒本 美鈴さん(山形地区)

長かったコロナのトンネルから這い出たものの、なかなか以前の生活に戻らないと感じているのは私だけでしょうか。

地区公民館のお仕事をさせていただいています。来館される方々といろいろ話す中で一番感じることは、健康意識がとて高いたいことす。

【フレイル予防】

超高齢化社会と言われて久しくもなりました。私自身が高齢者の仲間入り間近ですが、今、盛んに言われているフレイル(虚弱)予防サポーター研修に参加してきました。一昔前まで『介護予防』と呼ばれていたものです。

高齢になり、運動機能が低下するから動くことがおっくうになり、認知症も引き起こすと言われてきました。だから運動しなさいよ、

体操がいいですよ。これは逆の考えで、社会性の低下で生活や行動範囲が狭くなり運動機能が低下して行くのだそうです。元気な高齢者はサロンやミニデイなどの人の集まりの中でお喋りし、身体を動かして心身の健康を維持されています。一方で、人の集まりの苦手な方もいらつしやいます。お喋りだけがフレイル予防になるとは思えません。我々も含めて人中に現れない高齢者のフォローを公の機関の方々も考えていただきたく願います。

【災害】

また、年始めに大きな災害が発生しました。津波警報も発令され、東日本大震災を思われた方も多かったのではないのでしょうか。

その後の余震ではここでも揺れを感じました。今、間近に迫っている災

害から身を守ることもすぐ目の前にある課題だと思えます。決して人ごとではないことは、誰しも分かっていることです。被災者の支援は、現地に行くことだけではなく、災害を知り、被災者や避難所、災害ボランティアのことを理解するのにも支援に繋がってきます。まず、自分の身は自分で守ることから考えてみたいと思っています。災害時に人の手を借りずに動ける一人一人が増えることも支援になるのではないかと。要は、健康な身体でいましょうね、災害から逃げることでできる足腰をつくりましょうという事です。



山形地区公民館前にて

編集後記

元日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々への哀悼の意と、被害に遭われた多くの皆様へ心からお見舞いを申し上げます。

議会だより162号が、令和5年議会広報コンクールにおいて佳作賞を受賞しました。今後とも委員一同、より読みやすく、親しみやすい編集につとめてまいります。(田中)



編集 広報広聴常任委員会

委員長 波多 恵理子

以下議員全員

発行責任者 議長 谷口 雅人